

外部有識者等の意見・コメント	
1 必要性	・ 県政の運営指針である第3期ふるさと秋田元気創造プランには森林資源の循環利用が掲げられており、再造林の促進に係る低コスト造林は重要性が高い。また、県単事業の創設や県職員による再造林プロジェクトチーム、民間林業関係者等が会した地域振興局ごとの協議会の設置など取組を強化している課題であることから、施策との合致性も高い。初期成長の高い品種の開発は下刈りコストの低減につながり、さらに、雄花着生量の少ない品種となると、県民の花粉症対策にも貢献することから、早急に着手する必要がある。 ・ 本新規研究課題は、秋田県における林業・木材産業の成長産業化に資する新たなスギ品種の開発を行うものであり、政策への適合性、公共性および公益性も極めて高いと考えられる。また、林木を対象とした新品種の開発は、事業期間の長期化や育種素材の所有等、民間研究機関における実施は難しく、県あるいは国が行うことが期待される研究事業である。
2 有効性	・ 研究課題名が「低コスト造林」である以上、新規課題の実施を通じて山林所有者が1.5倍以上の収益が得られるといった記載の根拠となる具体的なデータを示し、納得感が得られる説明をすることが重要だと思われる。 ・ 開発する品種の材積成長量が大きいことから、現在のスギの標準伐期齢50年から九州並みの35年程度に縮減可能になれば、森林資源の循環利用のサイクルが短くなり、植栽から収穫までの投資経費の回収期間も短くなる。所有者の山への関心も高まり、再造林の促進につながると見込まれることから、有効性は十分ある。 ・ 林業は秋田県における重要な産業の一つであり、今後の林業・木材産業の振興に極めて高い意義のある研究課題と考えられる。林木育種事業は長期的な取組であることから、成果の普及に関して、本研究課題実施後も引き続き公的な支援が必要である。
3 技術的達成可能性	・ 品種開発の最終到達目標が8種以上ということだが、既に2品種が開発され、今後技術力のある国の関係機関等の協力を得ながら進めていくことにしていることから、達成可能な目標と見込まれ、種子供給の早期実現に向け、成果が大いに期待される。 ・ 他研究機関(新潟大学)との協働により、研究開発の進捗が確実なものになると考えられる。なお、スギ品種の遺伝子判定に関しては、国の研究機関である「森林総合研究所・林木育種センター」が全国のスギ品種を対象としたデータベースをすでに構築していることから、利用する遺伝マーカー等に関して「森林総合研究所・林木育種センター」との情報共有を積極的に行ってほしい。
4 その他	

低コスト造林を実現する秋田スギの開発 (R3~7年度、県単、5か年)

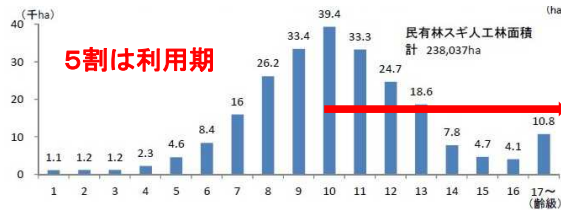
概要

低コスト造林に適した秋田スギの品種開発を行うとともに、遺伝子型解析によって品種本来の性能を引き出す効率的な利用を図り、種子供給の早期実現を目指します。

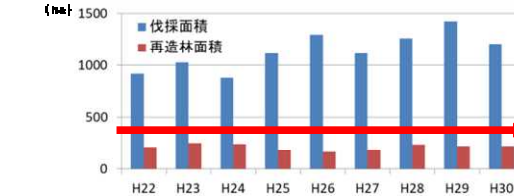
現状と課題

消えゆく秋田スギ資源

利用期にある資源



低迷する再造林 2割前後と低空飛行



資源の循環利用

に赤信号

植える



これまでの対応

再造林の推進

政策目標

再造林対策プロジェクト

・令和7年度に再造林率5割超！

技術改良

造林施業の改良

・伐採、植栽一貫作業

・苗木植栽本数の削減

・下刈り保育作業の低減

・コンテナ苗の導入

品種開発

優れた初期成長

・特定母樹の開発

令和元年2品種(実績)

令和2年7品種(目標)



本研究の取組

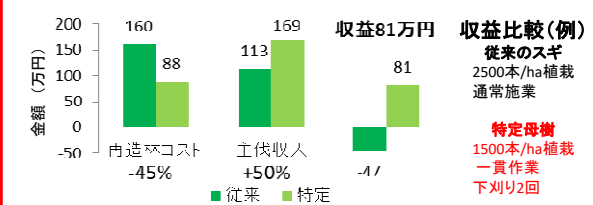
品種開発の推進

低コスト造林に適した品種の開発

次世代化による機能向上

・特定母樹(エリートツリー)

⇒ 低コスト再造林の実現



開発品種の効率的利用

遺伝子マーカーで解析

・個体識別

⇒ 適正な品種管理

・家系解析

⇒ 近親交配の防止



目標 オール秋田で種子生産

国十県で普及のボトルネック解消を

秋田×他県から 秋田×秋田へ

8品種開発し、25型採種園の実現を

研究開発効果

⇒ 県林業・木材産業の成長産業化！

成長、材質に優れた品種 ⇒ 再造林の促進

再造林の促進

⇒ 秋田スギのオリジナリティー維持、強化

秋田スギのオリジナリティー維持、強化

⇒ 秋田スギの販売促進